

# ほたるの里だより



八千代市ほたるの里づくり実行委員会

第36号 2012年1月

## 「ほたるの里づくりの活動」

八千代市環境保全課環境政策室 副主幹 谷口 路代

昨年3月11日に発生した東日本大震災は、大きな被害をもたらしただけでなく、遠い福島や新潟から送られてくる電力が、都市の生活を支えていたことを、当たり前のように受け入れることで成り立っていた私たちの生活や価値観を、見直すことになったのではないのでしょうか。

ほたるの里の活動は、生態系を保全しホタルだけではなく、メダカやアカガエル、ジャコウアゲハ、その他のいろいろな生き物のすめる里、そして、何よりも市民の皆様が親しめる、うるおいとやさしの里、さらに、環境学習の場になることを目指しています。

昨年の八千代市ほたるの里づくり実行委員会は、「3つのチャレンジ」ということで①アメリカザリガニの駆除②「ほたるの里の湿地をミニ田んぼに！」③ほたるの里の生き物と水質の調査、を目標にかかげ活動してきました。月に一度の環境整備に参加して下さるホタルメイトも増え、徐々にですがいろいろなチャレンジもできるようになってきました。草を刈る、伸びた木を切る、ホタルハウスの中に土を入れ、水路に草を植える準備をする、抜けた杭を打つなどたくさんの方の参加で、一度にできる作業もはかどります。そして、次に何をしたらよいかをみんなで話し合い、今年こそは元気にホタルが飛ぶ姿がみられるようにと願って作業しています。↑



フクジュソウ (キンボウゲ科)

最近、ほたるの里で気になることがあります。トンボ池に、特定外来生物であるブルーギルやもともといなかった生き物がいます。釣った人が池に入れているようです。現在は、生物多様性保全や遺伝子汚染の進行を防ぐために、他からは持ち込まない、持ち出さない、が基本となっています。ほたるの里に限らず絶対やめていただきたい行為です。ゲンジボタルなども関東のオスは4秒に1回の発光をしますが、関西のオスは2秒に1回の発光であることは知られています。これは同じゲンジボタルでも遺伝的に違いがあることを示し、関西のホタルを関東で放すことは生態系をかく乱することになります。

最近、ほたるの里で気になることがあります。トンボ池に、特定外来生物であるブルーギルやもともといなかった生き物がいます。釣った人が池に入れているようです。現在は、生物多様性保全や遺伝子汚染の進行を防ぐために、他からは持ち込まない、持ち出さない、が基本となっています。ほたるの里に限らず絶対やめていただきたい行為です。ゲンジボタルなども関東のオスは4秒に1回の発光をしますが、関西のオスは2秒に1回の発光であることは知られています。これは同じゲンジボタルでも遺伝的に違いがあることを示し、関西のホタルを関東で放すことは生態系をかく乱することになります。

八千代市ほたるの里づくり実行委員会は、地域のヘイケボタルの保全を目標におき、ホタルメイトが八千代産のヘイケボタルの幼虫を育て、放流をしています。なかなか八千代産ホタルがほたるの里を飛ぶ姿がみられないのが現状です。

このほたるの里を、多くの市民に知っていただき、力を貸していただくことによって、市民みんなの生き物の里として、マナーを守って大切に育てようという気持ちを共有できれば素晴らしいと思います。

今年はほたるの里の環境整備に参加してホタルの飛ぶ姿をみてみませんか。皆様の参加をお待ちしています。

人もホタルも輝く街へ！！ 私たちはほたるの里を応援しています！

石井食品株式会社 NPO 法人高齢者福祉ネット ガールスカウト千葉県第57団  
共栄物流株式会社 クボタ環境サービス株式会社 NPO 法人子どもネット八千代 斉藤鑿泉管工  
NPO 法人八千代オイコス 八千代ホタルフォーラム 有限会社 A 米本団体自治会

## 「屋形舟から印旛沼を知る見学会」に参加して

ホタルメイト 松本 純一（大学生）

今回は、西印旛沼、北印旛沼の辺りの自然と歴史を体験、学ぶことにより、改めて印旛沼が私たちにとって大切な水がめであるということを理解することが目的だった。

10月30日朝、市役所をバスで出発し、昔の印旛沼が今より大きく、竜の形に似ていたことや、沼の水が住宅団地がたくさんでき、生活排水が新川を通じて流れ込むことによって、だんだん汚れてきたことなどの説明があった。

西印旛沼に着き、竜神橋から屋形船に乗り、ゆっくり印旛沼を遊覧した。ふだん、車で印旛沼のまわりを走ることであっても、船に乗り沼からまわりを眺めるのは初めてだったので良い経験ができ楽しかった。一番印象に残ったのは、カワウ、ダイサギ、アオサギ、ユリカモメなど鳥たちの姿を観察できたことだ。ユリカモメは朝、東京湾から印旛沼に飛来し、夕方東京湾に帰るといふことや、北印旛沼では、水は少しきれいになってきているが、鳥が減ってきていて、寂しいとの説明があった。沼に生育している水草や、餌となる魚や水辺の環境が整備されないと、たんに水が綺麗になっただけでは鳥たちは戻ってこないのだろう。これは、ほたるの里の活動にも言えることだと思う。^



松虫寺での住職の説明風景

麻賀多神社では、樹齢 1300 年以上の大杉を見学した。不老長寿祈願のご神木で、県の天然記念樹だ。太さ 8 m、高さ 40 mあり、今話題のパワースポットにもなるのではと思うほどの迫力だった。松虫寺は、民家に囲まれ静かに建つ小さな古寺で、とても風情があった。ご住職のはからいで、木造薬師如来像を見せていただくことができた。この仏様は国の重要文化財であり、たぶん個人では絶対に拝見できないが、今回特別に調査ということで、貴重な体験ができた。ご住職に感謝です。今回私は、印旛沼の周りの自然と歴史にふれ、大昔から祖先がこの沼を大切にし、沼と共に暮らしてきたことが分かった。新川の流れる八千代市の役割は重要であり、改めて私たちのほたるの里の活動の意味を考えさせられた。

## ヤマトミクリの里づくり

八千代市内の島田・桑納地域は、桑橋熊野神社や薬師堂等神社も多く、古くから人々が暮らし、谷津・里山景観が今でも残るところです。その島田谷津には、県内で唯一生育確認されている千葉県最重要保護である「ヤマトミクリ」という水生植物があります。

このヤマトミクリをシンボルとして、島田・桑納地区の谷津・里山を保全・再生・活用することを願い、八千代市ほたるの里づくり実行員会、NPO 法人八千代オイコス等や八千代市と協議会を作り、平成23年度連携・協働による地域課題解決モデル事業に応募し受託しました。現在、地権者、地域の農家の方・住民の方や島田谷津に関わる市民団体、大学・専門家等が参加する円卓会議を開催し、里づくりを地域の方のご意見を尊重しながら話し合いを進めています。

HP (<http://yamatomikuri.net/>)

(文責 協議会)

## 印旛沼流域・環境体験フェアの出展報告

10月22日(土)に開催されました「印旛沼流域・環境体験フェア」にはほたるの里づくり実行委員会で開催しました。このイベントは佐倉のふるさと広場の向かいで印旛沼浄化の活動につなげることを目的に開かれ、里では「里のあゆみ」のパネルを用いた展示や活動内容の説明等を行いました。当日ブースに来て下さった方の中にはリーフレットを見て興味を持って下さり、「八千代にこのような場所があるのは知らなかった。今度行ってみます」との声も聞くことができました。今回他の市で行われたイベントに参加したことで、他の市に住む人にもほたるの里、新川と印旛沼のつながりを知ってもらうことができ活動の広がりや活性化に繋がったのではないかと感じました。また、他の出展団体で企画をどのように工夫しているか見たことを今後のイベントに活かしたいと思います。

(文責 広報部)

## ～きっずコーナー～

とくてい がいらい せいぶつ

# 特定外来生物って何？

か 飼うこと、運ぶこと、売ること等が禁止されている、他の生きものなどに大きな影響<sup>えいきょう</sup>を与える生物<sup>せいぶつ</sup>のことだよ。

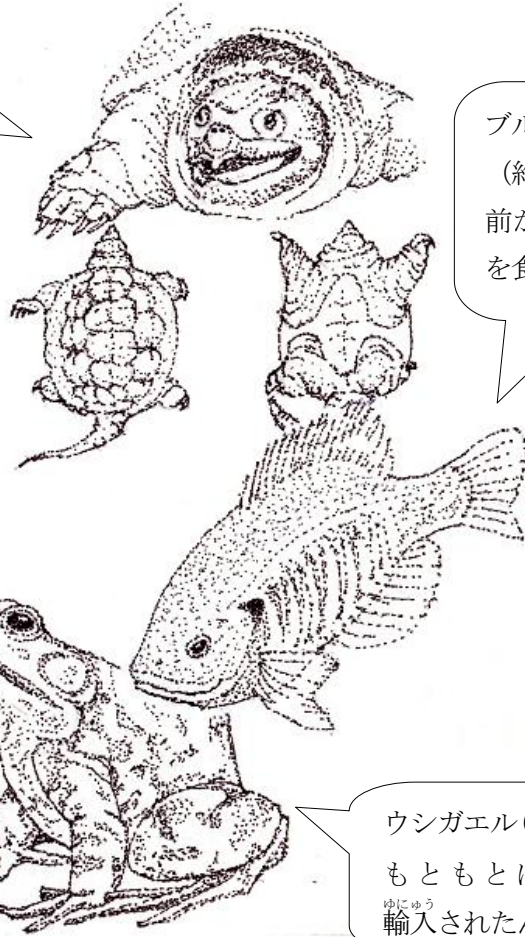
カミツキガメ (約 50 cm)

口と爪<sup>つめ</sup>がすどく、しっぽがギザギザだよ。



アライグマ (40～60 cm)

指<sup>ゆび</sup>が長く、しっぽがシマシマなのが特徴<sup>とくちょう</sup>だよ。



ブルーギル

(約 25 cm)

前からいた生きものを食べてしまうよ。

ウシガエル (115～180 mm)

ももとは食用<sup>しょくじょう</sup>として輸入<sup>ゆにゅう</sup>されたんだ。

(絵：もり 文：すずき)

## 八千代市民活動サポートセンター祭の報告

企画部 赤間 洋明

11月23日(祝)、第8回やちよ市民活動サポートセンター祭りがイオン八千代緑が丘ショッピングセンターで開催されました。天候にも恵まれ、ほたるの里づくり実行委員会のブースにも多くの人たちに立ち寄っていただきました。立ち寄っていただいた人には例年通りアンケートをお願いして実際にホテルを見たことの有無、ほたるの里に行ったことの有無を調査しました。アンケートに答えていただいた129人のうち、「ホテルを見たことがある人」は年々増加傾向にあり回答者の3/4強でした。↑

これに対し、「ほたるの里に行ったことのある人」は年々漸減傾向にあり、回答者のうち1/3しか里に行ったことがないという結果でした。ほたるの里をもっと多くの人たちに親んでもらうためにほたるが飛び交う里にしたいものです。里の改良、整備にご協力ください。



サポセン祭りの風景

## ほたるの里作品展を開催しました。



イオンでの作品展風景

今年度も八千代の自然をテーマに、ほたるの里づくり実行委員会・八千代市環境

保全課の共催で作品展を行

いました。作品は10月18日～26日（イトーヨーカドー八千代店）、11月1日～6日（イオン八千代緑が丘ショッピングセンター）に展示をしました。また、朝日新聞で「八千代の自然の魅力語る作品展」と記事にもなり、多くの方々が会場を見に来られました。皆様のご協力、誠にありがとうございました。なお来場者による人気投票で、最優秀賞と優秀賞を表彰いたしました。（文責 広報部）

## 八千代市「みためし行動」における

### 島田谷津清掃活動

八千代市内の谷津・里山からの湧き水の多くは新川を経てやがて印旛沼へと流れていきます。その印旛沼の水量の約6割がこのように各地域からの湧き水とも言われていますが、印旛沼の水は飲料水の水質として国内でもワースト5位内という状況です。この印旛沼の浄化に向けて流域13市町村、千葉県や市民団体などが活動しています。

八千代市環境保全課では、印旛沼浄化の活動の一つの湧水保全の取り組みとして、島田谷津のゴミ拾いや水路の清掃を11月9日に実施しました。当会のホタルメイトや市民団体、地域住民、工場など25人の参加がありました。稲刈りの済んだ田んぼにはアキアカネが飛び近くの睦小の1年生が秋探しに谷津を散策していました。さわやかな汗をかいたところで、湧水や水路、新川の水質をパックテストで調べました。少し残念なのは、硝酸態窒素の値が大きい事でした。（文責 広報部）

## 1～3月のスケジュール

### ◇ 里の環境整備 ◇



ほたるの里では里内の湿地やトンボ池の整備を行っています。

日時：3月3日（土）午前10時から12時頃

集合場所：ほたるの里

注意：各自で軍手・長靴・汚れてもよい服装・飲み物等のご用意をお願いします。

## やちよ里山シンポジウム2012を開催します

日時：3月24日（土）13:30～16:45

場所：八千代台文化センター多目的ホール

★基調講演 「里山保全と生物多様性」

吉田 正人氏（筑波大学大学院准教授）

★活動発表

①「いすみの小さな旅」

手塚 幸夫氏（夷隅郡市自然を守る会事務局長）

②「八千代市の活動」

～谷津・里山保全計画及び里山活動から～

八千代市環境政策室

参加費／無料 募集人数／150人

主催／八千代市環境保全課環境政策室

※参加希望の方は3月16日（金）までに、

八千代市環境保全課環境政策室へ

問合せ・お申し込み／環境保全課環境政策室

047-483-1151（代表）（内線3215）

## 第15回総会のお知らせ



日時：4月7日（土）10:00～12:00

場所：八千代市郷土博物館学習室

平成23年度の活動及び会計報告、24年度の活動予定について話し合います。

※総会の後に参加希望の方で村上緑地公園で自然観察をして、昼食を取ります。お弁当・水筒・レジャーシート等をお持ち下さい。

八千代市のホームページにほたるの里のページをつくりました。ぜひご覧下さい。

### 【ほたるの里の連絡先】

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局 八千代市役所環境保全課 内

Tel 047-483-1151 Fax 047-484-8824 E-mail kankyoul@city.yachiyo.chiba.jp

### 【編集】

広報部会 事務局